

亀岡の歴史遺産 惣構跡の保存を！

丹波亀山城惣構跡保存会

資料第2号 2016.3 発行：小川 博 編集：児嶋俊見

□お問い合わせ□ ☎0771-22-0020 (小川)

監修
永光 寛

印刷：天声社

まちの歴史を次代につなぐ

私たちはふるさと亀岡を、亀山城の城下町として誇りにしてきました。しかし、時代の流れの中で、町並みの景観は姿を変え、旧亀山城「惣構跡」(惣堀と土塁)も次第にその姿を無くしてきています。

先人が築いてきた歴史・文化を大切に守り、まちの歴史遺産を次世代につなごう、との思いを深め、平成26年7月、丹波亀山城惣構跡保存会を結成し、67名の会員で活動を始めています。

丹波亀山城は、かつて複数の河川と三つの堀でかこまれ、防禦が堅い城下町を形成していました。その中で、一番外の防禦の役割を果たしたのが惣構です。惣堀と土塁で形成されたこの遺跡は、規模は小さくなりましたが水路の大部分が残されています。一部、江戸時代の景観を残しているところもあります。

惣構とは

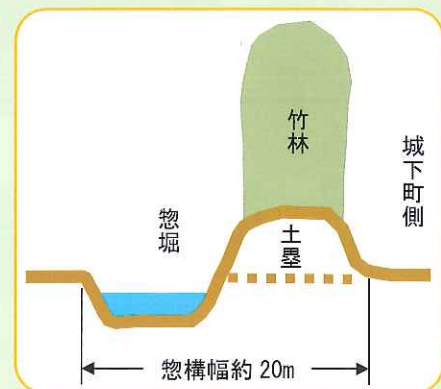
惣構とは、戦国時代末から江戸時代の初めにかけて各地につくられた城・城下町に敵兵の侵入を拒んだ最前線の防衛ラインのことです。「土塁」と「堀」で構成され、城下町を取り囲み、出入口の数を可能な限り少なくし、なお且つ、出入口には門や木戸を設け、防禦を完璧なものとしていました。また、土塁の上に竹などを植え、惣構の外から城下が見通せない策もほどされていました。

丹波亀山城の惣構

当城は、本丸、二の丸を囲む「内堀」、御殿や上級家臣団が居住する三の丸が「外堀」で囲まれ、その周囲に城下町がつくられていました。城下町には、中・下級家臣団や町衆が居住し、その周囲は土塁と堀で構成された「惣構」に囲まれていました。

「惣構」がつくられた時期は、①明智光秀の時代、②豊臣一門の時代、③徳川の時代に造られたと諸々の史料にありますが、確かなことは不明です。

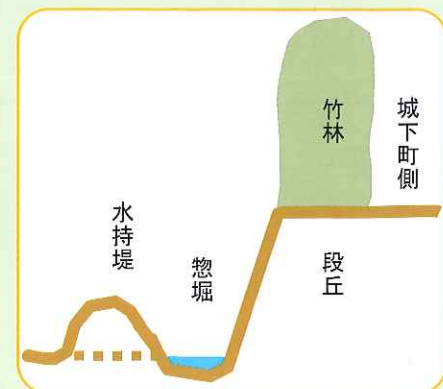
しかし、「関ヶ原の戦(1600年)」で徳川方が勝利し、「大坂の陣(1614・1615年)」で豊臣氏が滅びると、次第に戦闘状態から遠ざかっていきます。亀山城が天下普請によって修築されたのは1610年のことですが、同じ頃、修築ではなく新たに築城されたお城には惣構の構築があまりみられません。例えば、1609年の篠山城、1610年に築城された名古屋城なども惣構を伴っていません。このようにみると、亀山城の惣構は、遅くとも17世紀の初頭にはすでに存在していたのではないかと考えられます。実際に必要だったのは、戦闘の激しかった戦国時代で、江戸時代に入り戦乱が終結するようになれば不要になってきたのでしょう。西堅町の宗堅寺境内には惣構の上に、亀山城主(菅沼定芳・定昭/1643年没・1647年没)の墓所が築かれるといった状況は、明らかにそのことを意味していると考えられます。



①「平地」につくられた惣構

惣構の構造模式図

亀岡に残る惣構は、左図の①「平地」に造られたもの、右図の②「段丘」を利用したものなど、構造上2種類に分けることができます。①は城下町の南側と西側。②は光忠寺の下から段丘に沿ってニチコン亀岡工場の東を回り込み三宅町の南側まで。



②「段丘」を利用した惣構

残された遺構

明治以降、近代化の波が押し寄せ、土地利用の変化などで、城・城下町は徐々に解体していきます。なかでも、亀岡の城下町は比較的良好に残されていますが、惣構の実態はあまり知られていません。それだけに、いろいろな調査を踏まえて、歴史的価値や評価を確定し、保存の策を摸索していくことが急務と考えます。

文化財に指定された惣構跡 (亀岡市ホームページより)

□ 指定名称…………… 亀岡市指定文化財(史跡)「旧亀山城惣構跡(土居)」

□ 指定年月日……… 平成 24 年 11 月 22 日

所有者	指定地
天満神社	亀岡市京町 38 番 1、39 番 1
嶺樹院	亀岡市西堅町 50 番
宗堅寺	亀岡市西堅町 24 番 1
聖隣寺	亀岡市東堅町 43 番
亀岡市	亀岡市東堅町 47 番 (坂部公園)

亀山城の惣構跡

惣構の規模	- 惣堀→ 幅 : 5 間 (約 10m) 深さ : 1~1.5 間 (2m~3m) - 土塁→ 幅 : 5 間 (約 10m) 高さ : 2~2.5 間 (4m~5m) ■惣構の規模… 惣堀+土塁=約 20m/総延長=3km 弱 ■いつできたか… 17世紀のはじめには存在していた。
惣構の出入口	- 江戸時代の初めは、京口(三宅口)や穴太口など 9 か所に出入口が設けられ、その内 7 か所に「門」や「木戸」があった。 - 江戸時代の中頃には出入口が 12 か所に増加している。
火災に備える	惣堀を越えて、上矢田方面から城下町へ水路を設けていた。
大名墓所 ※宗堅寺境内	1640 年代には、土塁の上に亀山城主の墓が造られる。この頃になると「戦」も無くなり、城・城下町を防御する目的の惣構も役割が薄れてきたのであろう。目的外の使用が始まる。



惣堀



天満神社



嶺樹院



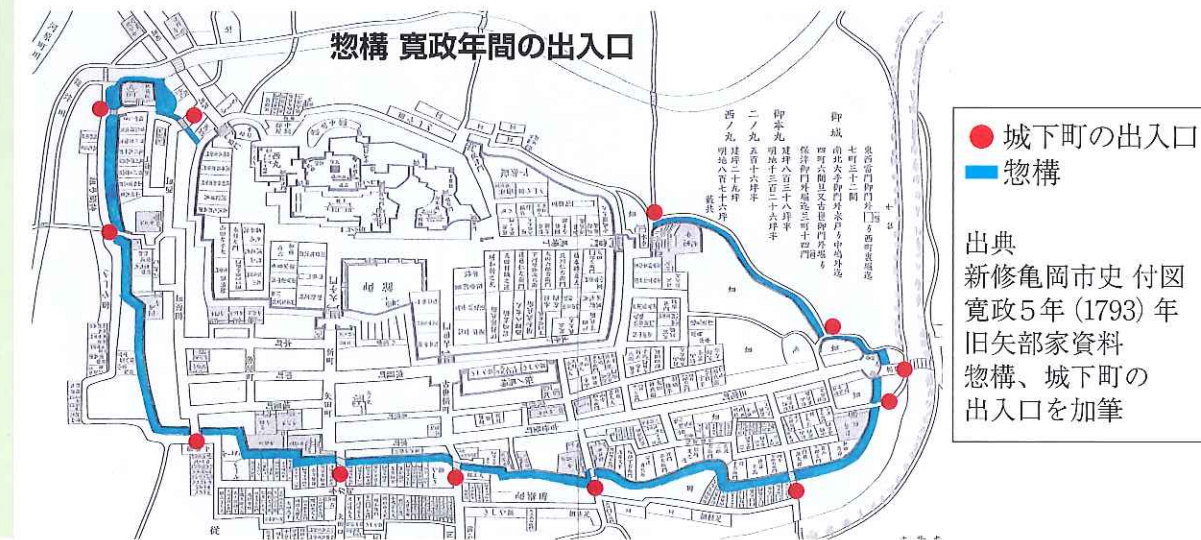
宗堅寺



聖隣寺



坂部公園



● 城下町の出入口
■ 惣構

出典
新修亀岡市史 付図
寛政5年(1793)年
旧矢部家資料
惣構、城下町の
出入口を加筆

惣堀跡は、姿、形を大きく変えていますが、水路としての機能を残しています。一方、土塁はほとんどが姿を消し、矢田町の宗福寺や西堅町の宗堅寺の境内に残された遺構などわずかです。また、長年大切に保存されてきた土塁が、新たな宅地造成により壊される例が続いています。



畑の先に惣構が展望できる



宅地造成で崩れゆく土塁



住職による解説(宗堅寺)

平成24年、亀岡市は、惣構跡の内、5カ所を史跡として文化財に指定しました。東から順に、坂部公園、聖隣寺、宗堅寺、嶺樹院、天満神社となります。これらの指定地は、惣堀と土塁で形成された様子を見ることができます。

しかし、指定地以外では、矢田町にある宗福寺の境内は、惣堀こそ狭くなっていますが、土塁を竹林が覆っている景観は、江戸時代のようなすうかがい知ることができます。

また、京町や矢田町には、自宅の裏庭にある惣堀と土塁を大切に保存している方もあります。神社や寺院の境内に土塁や惣堀跡を観ることができます。宗福寺、嶺樹院、宗堅寺、聖隣寺では、お声をかけてから拝観されることをお勧めします。

現在でも、惣構跡に沿って多くの寺院が見られます。しかし、城下絵図などを参照すれば、江戸時代の初めころは意外と少なく、現在の半数程度であり、その後増加していくようです。

亀山城の貴重な史跡 惣構跡の保存に あなたのご協力を！

丹波亀山城惣構跡の散策

丹波亀山城惣構跡保存会

惣構跡の散策

- ① 光忠寺の大名墓と段丘下に設けられた惣堀跡
- ② 京口の旧山陰街道(三宅町東端)
- ③ 城下東端の中世城郭跡(昌寿院)
- ④ 城下唯一の式内社(三宅神社)
- ⑤ 土塁と四男が建てた父信長の供養塔(聖隣寺)
- ⑥ 土塁と大名墓(宗堅寺)
- ⑦ 惣堀を越え、上矢田から城下町への給水路(古世町口)
- ⑧ 土塁と鬼瓦に見る城主青山氏の家紋(京町・天満神社)
- ⑨ 大手正面の城下出入口と上矢田から城下町への給水路
- ⑩ 江戸時代の景観が残る惣構跡(宗福寺)
- ⑪ 惣堀を土橋でわたる塩屋町口
- ⑫ 土塁ともう一つの大名菩提寺(円通寺)
- ⑬ 防火の神、秋葉神社と惣構の複雑な出入口
- ⑭ 雑水川と合流する惣堀跡
- ⑮ 蜚が舞う地藏院横の惣堀跡
- ⑯ 旧山陰街道と交差する惣堀跡
- ⑰ 外堀から雑水川へ

宗福寺の土塁上で見られる植物(同定:津軽俊介さん)

マサキ(ニシキギ科) トウネズミモチ(モクセイ科)
ナンテン(メギ科) ツバキ(ツバキ科) ナワシログミ(グミ科)
アオキ(ミズキ科) シャガ(アヤメ科) シキミ(シキミ科)
ネズミモチ(モクセイ科) アラカシ(ブナ科) キヅタ(ウコギ科)
バラ(ユリ科) ヤツデ(ウコギ科) フユイチゴ(バラ科)
チャ(ツバキ科) ナワシログミ(グミ科) クスノキ(クスノキ科)
ツルシノブ(クサシダ科) アケビ(アケビ科) タラヨウ(モチノキ科)

旧山陰街道

丹波亀山城惣構跡

徒歩による調査経路

聞き取り、実測、植生の調査

この資料は、永光 寛氏の講演資料を参考にして構成したものです。

1



2



3



4



5



6



7



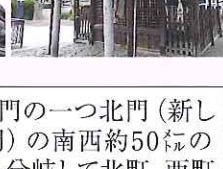
8



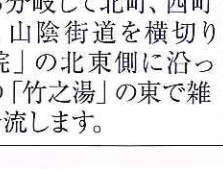
9



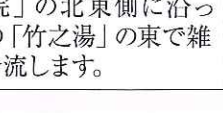
10



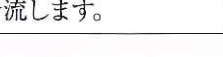
11



12



13



14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

